

令和2年度 授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修 成果報告書

校長・准校長サイン	名前
-----------	----

学校名 府立箕面東高等学校	名前
---------------	----

1 学校教育目標（めざす生徒像）

生徒一人ひとりを大切にする教育の実践を通して、社会人として必要な資質・能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。アドミッションポリシーは次の3つである。

- ・チャレンジ精神にあふれる生徒
- ・自分の力を人や社会のために役立てる気持ちの強い生徒
- ・規律を守り、学校生活を充実させたい生徒

2 令和2年度の校内研究の取組み

(1) 研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

新学習指導要領に基づいた評価の在り方について校内研修を行う

②テーマ設定理由

教務主任という立場もあり、新学習指導要領における学習評価について、全教員にきちんと理解してもらう必要があると考えたため。特に、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、教員間における認識のずれが大きくなる恐れがあると考えたため。

(2) 校内研究の取組みについて

①研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

新学習指導要領における学習評価について共通理解を図る。

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価について校内研修を行う。

②具体的な取組み

(ア) 新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方を学ぶ全体研修（9月1日）

教育センター指導主事による講義を受け、学習評価の基本的な考え方を学習した。その中でワークショップを取り入れ、次の(i)、(ii)を行った。

(i)各教員に考査問題を持ち寄ってもらい、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を測る問いを用紙に直接マークする作業を通して、個々の現状を教科で共有した。

(ii)授業等で「思考・判断・表現」を評価するための場面や方法について教科ごとに議論し、用紙に書き出した。

(イ)「思考・判断・表現」の評価についての研究授業・研究協議（11月9日）

数学Ⅰの授業を担当する数学科教員1名に、「思考・判断・表現」の評価方法について

での研究授業を実施してもらった。その際、本校で導入した C-Learning という学習支援システムの教員研修も兼ねて授業展開してもらった。

午後の授業をカットして、研究協議を実施した。研究協議の初めに、研究授業の主な場面を撮影した写真をスクリーンに映しながら、授業の進め方やポイント、ねらい等を解説し、皆が共通イメージをもった状態で進化した。また、コロナ対策と C-Learning の教員研修も兼ねて、スマホで協議内容を入力・回答した。それをリアルタイムでスクリーンに映し出し、共感できる回答に「いいね」ボタンを押し、多く票を集めた意見を出した教員に詳細を語ってもらった。その後、教育センター指導主事による助言・まとめを行った。



(ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての全体研修（1月8日）

双方向のオンライン授業の試行も兼ねて、ZOOM を利用したオンライン全体研修を実施した。教育センター指導主事・司会者・操作する教員がホスト側の LAN 教室パソコンから配信し、各教員はパソコン・タブレット端末・スマートフォンを利用して別々の場所から参加した。指導主事による「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、講義を視聴したり、ブレイクアウトルーム機能を利用してグループで協議したりした。

③ 取組みの検証方法

具体的なアンケートはまだ実施できていないため、テーマ設定上、次の2点で検証する。

- (ア) 各研修への教員の参加率
- (イ) 校内研修の振り返りを行える環境づくり

3 取組みの検証

(1) 校内研究の成果

- (ア) 各研修への教員の参加率

9月1日の全体研修・・・80%

11月9日の研究授業・研究協議・・・順に25%・72%

1月8日の全体研修・・・65%

新学習指導要領の学習評価に対する共通理解を図るためには、まずは参加してもらう必要があるため、職員会議並みの高い参加率となったことから、成果があったと考える。

- (イ) 校内研修の振り返りを行える環境づくり

9月1日の全体研修については、いつでも視聴できるように動画を共有フォルダ上に格納し、不参加教員にも講義資料を配布した。11月9日の研究協議については、各教員が回答した意見等のデータは、C-Learning でいつでも見ることができるように残してある。1月8日の全体研修については、講義資料を不参加教員にも配付し

た。必要最低限の点については押さえた。あとは、個々の教員が授業にいかにか落とし込んで消化していくかがカギである。

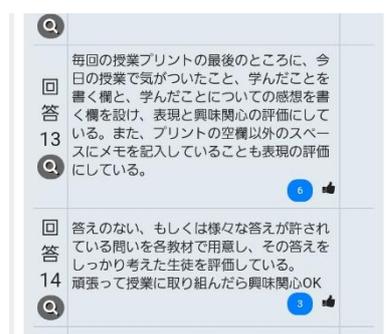
(2) 生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

今年度の取り組みは、新学習指導要領について、主に教員に対する共通理解を深めることに重点をおいていたため、授業に反映し実際に学習評価へ組み込んでいくのは来年度以降になる。（今回はこの項目はなじまない）

(3) 教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

年3回に渡って実施した研修を通して、「学習評価の在り方が変わる」という意識改革が進んだと考える。理由は、各研修への参加率が高かったからと、教員室において学習評価に関する会話が增えたからである。

C-Learning や ZOOM を利用した研修に対しては、「斬新で面白かった」、「これ授業でも使えるね」、「飽きずに参加できた」といった声を多くいただき、その後の授業や講演会等で C-Learning や ZOOM を活用する場面が学校としても増え、教育の幅が広がったと感じている。



4 今後に向けて

(1) 今年度の課題

- ・研究授業や研修準備を行う教員の負担感が大きい。
- ・学習支援システム C-Learning については、まだ一部の教員しか使いこなせていない状況である。

(2) 次年度に向けて

- ・研修を通して学んだ観点別学習状況の評価等を、実際の授業に落とし込む作業が教員一人ひとりで必要である。
- ・教務内規の見直しも含め、各教科で評価規準や評価方法、評定への総括の在り方等を検討・検証する。
- ・学校として、次年度は全教員が授業内で C-Learning を活用することをめざしているのので、その研修や事例収集が必要である。

令和2年度 校内研修年間実施報告

1 令和2年度の目標(テーマ・主題)

新学習指導要領に基づいた評価の在り方について校内研修を行う。

2 実施日・内容等

月	日	校 内 研 究 の 実 際	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	1	新カリキュラム検討チーム発足	
7	3	パッケージ研修打ち合わせ 年間の流れを決定	
7	7	新カリキュラム検討会議 (以後時間割内で設定) 研修テーマ、研究授業対象者を決定	
8	17		職員会議でパッケージ研修全体会①の案内
8	20	パッケージ研修打ち合わせ 全体会①の詳細を決定	
9	1		パッケージ研修全体会①
10	20	新カリキュラム検討会議 研究授業の詳細を決定	
11	9		研究授業、研究協議 (パッケージ研修) 数学 I の三角比の授業
1	4	パッケージ研修打ち合わせ 全体会②の詳細を決定	パッケージ研修全体会②の案内
1	8		パッケージ研修全体会②
2	2	新カリキュラム検討会議 今年度のふりかえり	

令和3年度 校内研修年間計画

1 令和3年度の目標(テーマ・主題)

新学習指導要領における観点別学習状況の評価を各教員の授業で試行する。

2 年間予定

月	日	校 内 研 究 計 画	
		研究推進委員会 等	教職員全体研修会 等
4	中旬	教務部会① 観点別学習状況の評価から評定を算出 する方法について原案作成	
4	下旬		職員会議で教務部会①の内容を提案 し、教科で検討
5	中旬	教科代表者会議① 教務部会①の内容を決定	
6	中旬		職員会議で教科代表者会議①の内容を 周知 授業公開日に研究授業を実施 (初任者、10年目経験者等)
6	下旬	教務部会② 評価について教務内規の見直しを図り、 原案作成	
7	中旬		職員会議で教務部会②の内容を提案 ↓
9	上旬	教科代表者会議② 観点別学習状況の評価の試行について ↓	職員会議で決定事項を周知
11	上旬	↓ ↓ (試行期間)	授業公開日に研究授業を実施 (初任者、10年目経験者等)
11	下旬	↓	
1	中旬	ふりかえり・総括	